

三翠化学

(題字は稲川先生)
第55号
平成17年12月1日発行
三翠化学会
津市栗真町屋町1577
三重大学農芸化学コース内
電話/津(059)232-1211
振替/名古屋9-59345
印刷/株式会社あるむ
TEL(052)332-0861 大8長谷川 正一

平成16年度 三翠化学会 総会・懇親会報告

昨年の七月三十一日(土)午前十一時より、平成一六年度三翠化学会総会が三重大学生物資源学部二階大講義室において行われ、来賓として恩師の熊沢先生と小宮先生のご臨席をいただいた。



農芸化学の歩み
三重県立専門学校 農産科(昭和21)
三重大学農学(昭和24)
三重大学農芸化学科(昭和28)
三重大学農芸化学科(昭和30)
三重大学農芸化学科(昭和32)
三重大学農芸化学科(昭和34)
三重大学農芸化学科(昭和36)
三重大学農芸化学科(昭和38)
三重大学農芸化学科(昭和40)

当日は台風の影響による集中豪雨のためか、やむなく欠席された会員も数多く見られた中、三十名ほどの参加者があった。総会では恒例により福田会長(大1)の挨拶と、恩師熊沢先生のご挨拶をいただいた。議事に入り、平成一四・一五年の事業報告、決算報告、基金会計報告が担当幹事により行われ、満場一致で承認された。引き続き福田会長より平成一六・一七年度役員が委嘱された後、平成一六・一七年度事業計画、予算が担当幹事から提案され、いずれも承認された。

三翠化学会総会に引き続き、三重県支部総会が池山三重県支部長(大16)の進行で開催され、滞りなく終了した。十一時半より特別講演として「農芸化学のあゆみ」と題して、小畑先生(大15)にお話を頂いた。農芸化学の懐かしい写真を液晶プロジェクタで投影しながら、出席者に対する楽しいインタビュも交えて行なわれた。豪雨の勢いも一向に衰えぬ中、会場を生協第一食堂に移し懇親会となった。まず、来賓として小宮先生にご挨拶を頂いた後、前田先生(専2)の音頭で乾杯し、祝宴に入った。楽しい歓談が行われた後、三翠応援歌を今西氏(専1)の先導で高らかに吟唱し、最も遠方(茨城県つくば市)より参加された田中康夫氏(大8)の発声で万歳三唱して懇親会はお開きとなった。

大東京の中心に位置する学士会館三〇二号室に「三翠応援歌」が朗々と響きわたりました。まさにこの時、ふり返れば昭和四十九年に誕生した関東支部総会が、十八年ぶりに復活を果たしたのであります。前日には雪化粧をして、膚の引き締まる清冽な雰囲気の中で、C15長島氏の歯切れのよい欣々とした司会のもと、平成一七年二月九日の正午に総会が始まりました。長瀬支部長(専1)の開

十八年の星霜をへて三翠化学会関東支部総会復活
♪緑したたる東海の伊勢湾上に波揺らぎ♪

鳴林先生はお歳を感じさせないハリのあふれる声で、三重大学における農芸化学のあゆみから説きおこされ、三翠化学会の誕生逸話から三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

年長は実に六十有余歳。C12吉田氏はシャッターチャンス求めて奮闘の結果、ご自身が写っていた集合写真一枚のみだったという逸話もありました。第三部の懇親会は辻野新支部長の挨拶で始まり、三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

た。当日は台風の影響による集中豪雨のためか、やむなく欠席された会員も数多く見られた中、三十名ほどの参加者があった。総会では恒例により福田会長(大1)の挨拶と、恩師熊沢先生のご挨拶をいただいた。議事に入り、平成一四・一五年の事業報告、決算報告、基金会計報告が担当幹事により行われ、満場一致で承認された。引き続き福田会長より平成一六・一七年度役員が委嘱された後、平成一六・一七年度事業計画、予算が担当幹事から提案され、いずれも承認された。

三翠化学会総会に引き続き、三重県支部総会が池山三重県支部長(大16)の進行で開催され、滞りなく終了した。十一時半より特別講演として「農芸化学のあゆみ」と題して、小畑先生(大15)にお話を頂いた。農芸化学の懐かしい写真を液晶プロジェクタで投影しながら、出席者に対する楽しいインタビュも交えて行なわれた。豪雨の勢いも一向に衰えぬ中、会場を生協第一食堂に移し懇親会となった。まず、来賓として小宮先生にご挨拶を頂いた後、前田先生(専2)の音頭で乾杯し、祝宴に入った。楽しい歓談が行われた後、三翠応援歌を今西氏(専1)の先導で高らかに吟唱し、最も遠方(茨城県つくば市)より参加された田中康夫氏(大8)の発声で万歳三唱して懇親会はお開きとなった。

大東京の中心に位置する学士会館三〇二号室に「三翠応援歌」が朗々と響きわたりました。まさにこの時、ふり返れば昭和四十九年に誕生した関東支部総会が、十八年ぶりに復活を果たしたのであります。前日には雪化粧をして、膚の引き締まる清冽な雰囲気の中で、C15長島氏の歯切れのよい欣々とした司会のもと、平成一七年二月九日の正午に総会が始まりました。長瀬支部長(専1)の開

十八年の星霜をへて三翠化学会関東支部総会復活
♪緑したたる東海の伊勢湾上に波揺らぎ♪

鳴林先生はお歳を感じさせないハリのあふれる声で、三重大学における農芸化学のあゆみから説きおこされ、三翠化学会の誕生逸話から三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

年長は実に六十有余歳。C12吉田氏はシャッターチャンス求めて奮闘の結果、ご自身が写っていた集合写真一枚のみだったという逸話もありました。第三部の懇親会は辻野新支部長の挨拶で始まり、三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

三翠化学会総会に引き続き、三重県支部総会が池山三重県支部長(大16)の進行で開催され、滞りなく終了した。十一時半より特別講演として「農芸化学のあゆみ」と題して、小畑先生(大15)にお話を頂いた。農芸化学の懐かしい写真を液晶プロジェクタで投影しながら、出席者に対する楽しいインタビュも交えて行なわれた。豪雨の勢いも一向に衰えぬ中、会場を生協第一食堂に移し懇親会となった。まず、来賓として小宮先生にご挨拶を頂いた後、前田先生(専2)の音頭で乾杯し、祝宴に入った。楽しい歓談が行われた後、三翠応援歌を今西氏(専1)の先導で高らかに吟唱し、最も遠方(茨城県つくば市)より参加された田中康夫氏(大8)の発声で万歳三唱して懇親会はお開きとなった。

大東京の中心に位置する学士会館三〇二号室に「三翠応援歌」が朗々と響きわたりました。まさにこの時、ふり返れば昭和四十九年に誕生した関東支部総会が、十八年ぶりに復活を果たしたのであります。前日には雪化粧をして、膚の引き締まる清冽な雰囲気の中で、C15長島氏の歯切れのよい欣々とした司会のもと、平成一七年二月九日の正午に総会が始まりました。長瀬支部長(専1)の開

十八年の星霜をへて三翠化学会関東支部総会復活
♪緑したたる東海の伊勢湾上に波揺らぎ♪

鳴林先生はお歳を感じさせないハリのあふれる声で、三重大学における農芸化学のあゆみから説きおこされ、三翠化学会の誕生逸話から三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

年長は実に六十有余歳。C12吉田氏はシャッターチャンス求めて奮闘の結果、ご自身が写っていた集合写真一枚のみだったという逸話もありました。第三部の懇親会は辻野新支部長の挨拶で始まり、三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

年長は実に六十有余歳。C12吉田氏はシャッターチャンス求めて奮闘の結果、ご自身が写っていた集合写真一枚のみだったという逸話もありました。第三部の懇親会は辻野新支部長の挨拶で始まり、三翠同窓会の変遷で講演を締め括られました。小畑先生には最近の学園風景をプロジェクトを駆使してお話をいただきました。江戸橋駅周辺から大学横内の建物・施設、更には開港間もない中部国際空港に至るまで、まさに眼に残る講演でした。懐かしい皆様の記念写真をご覧下さい。出席者の平

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

更に、小柳先生のスターターによる農学部伝統の駅伝大会出発風景、昭和四十年当時の教官全員の集合写真等がプロジェクトのスクリーンにより映写され、いやが上にも盛り上がりを持続させるといふ演出の下、C14清水氏が閉会の挨拶を、そして最後に二年後の再会を誓い、C16市川氏のリードによる手拍子で散会となりました。以上、三翠

関西支部会たより

関西支部第6回支部総会が平成一六年一月七日(日)十一時からホテルクライトン新大阪で、久松三重大学教授、福田三翠化学会会長、談話会講師に大嶋岩雄氏(大9卒)、神辺道雄氏(大10卒)をお迎えすると共に、次期関東支部長候補者ならびに東海支部会員の特別参加のもと、支部会員二十九名が出席して開催された。

(1)総会(11時~11時30分) 支部長挨拶、来賓挨拶(福田三翠化学会会長)の後、議長に大10卒の岩尾氏を選出し議事に入った。会務並

①「ポップなくしてビール造りはなく、ビール造りなくしてポップは存在の理由を失う」の見地から、約四十年に及ぶビール製造のキャリアを有する大嶋岩雄氏(昭和三六年四月サッポロロビール入社、平成一一年三月同社定年退職)による豊富な体験並びに幅広い知識に基づいた「ビールに

②我が国におけるプレインヨグルト製造のバイオニアとして現場や研究所で活躍してこられた神辺道雄氏(昭和三七年四月明治乳業入社、平成一二年五月同社定年退職、現在、明治飼糧株式会社顧問の奮闘談、裏話を含めて「プレインヨグルトへの挑戦」と題する講演を拝聴した。特に、バイオニアとしての心構え、根性・意欲は若手会員にとって非常に良い勉強に

なつたと同時に勇気と希望を与えられたと受け止めた。支部特有の談話会も、三年目で漸く定着・軌道に乗ったと意を強くした。

(3)記念撮影(12時55分~13時)一堂に会し、記念撮影。カメラマンは内田氏(大15卒)。

(4)懇親会(13時5分~15時) 東海支部から特別参加頂いた岩佐氏(大12卒)の乾杯により懇親会がスタート(料理は、当ホテルの特別メニュー、ビール

に於ける三重大学の動向、特別参加の三翠化学会関東支部次期支部長候補の辻野隆房氏(大11卒)による関東支部活性化と若返りの状況、更には若手支部会員のスピーチを織り込み、会中堅・若手を中心に大いに盛りあがった。お開きに際し、恒例・伝統の三翠応援歌を歌い(リーダーは専1卒の佐野氏、次回の再会を約し、三々五々帰路に着いた。支部会員の出席者数は昨年並みであったが、例年にない多彩なゲストの参加もあり、談話会と懇親会は大盛況であった。出席者数は五十名ラインが望ましいのですが、茲・2・3年は三十名前後と低迷しています。次回こそは貴方も是非ご参加ください。(専1嶋林)

関西支部会 第7回総会 予告

日時：平成17年11月5日(土) 10時30分から
会場：ホテルクライトン新大阪
TEL06(6885)1211
〒532-0011 大阪府淀川区西中島2-13-32
(地下鉄御堂筋線西中島南方②番出口から阪急線沿い西へ徒歩3分、または阪急電鉄南方西出口から阪急線沿い西へ徒歩3分)
会費：男子5,000円、女子4,000円
内容：(1)総会：①会務報告、②会計報告、③役員改選等
(2)談話会
講師：鋤柄修氏(大12(株)エステム代表取締役会長、中小企業家同友会全国協議会幹事長、国大法三重大学経営協議会委員)
演題：「異端の技術屋からベンチャー企業家への転身——水処理技術集団づくりに取り組んで35年——」
(3)記念撮影、(4)懇親会
来賓として、三重大学名誉教授熊澤善三郎先生並びに三翠化学会会長福田映氏がご出席されます。旧交を温めるまたとない機会です。友人、先輩、後輩に声を掛け合いご出席ください。支部会員各位には後日詳細をお知らせ致します。支部会員以外の方のご参加も大歓迎です。参加ご希望の方は予め支部長または支部幹事等にお知らせください。

熊澤善三郎先生叙勲受章

お祝いの会が開かれました

平成一六年度秋の叙勲において、三重大学名誉教授の熊澤善三郎先生が瑞宝中綬章を受章されました。

熊澤先生は、昭和三十七年に旧農芸化学科農薬化学研究室の創設に際して教授として着任され、平成二年に御退官になられるまで、三十八年間の長きに渡って研究と教育に邁進されました。ツツジの根に含まれる有毒成分、グラヤノトキシンの化学構造を決定される偉業を成し遂げられました。機器分析装置もろくにない時代から研究を始めて、有機化学の手法を駆使して、また、赤外分光装置を自ら製作されるなどの工夫と努力の末、十年以上を掛けて全構造を確定されました。また、熊澤先生は、旧農学部から生物資源学部へ移って農薬化学研究室の教授として、また、農学部および生物資源学部長として教育および大学運営にもひとかたならない活躍をされたことも言うまでもありません。これらの総合的な業績が高く評価されての授章と伺っております。

熊澤先生の栄誉ある受章を受け、去る平成一七年一月八日、先生を慕う人たちが集まり、先生の栄誉をお祝いする会が、津駅前ホテルグリーンパーク津において開催されました。

熊澤先生が主宰された旧農薬化学研究室、および熊澤先生と柏村直樹先生が興された生理活性化学研究室の同窓生、それに、熊澤先生が担任を務められた、大

学二十回、および、大学三
十回卒業生が集まりまし
た。三重大学名誉教授の嶋
林幸英先生、同じく名誉教
授の柏村直樹先生、信州大
学名誉教授の入江謙三先生
のご参加も頂き、熊澤先生
ご夫妻をお迎えして総勢七
十五名もの盛大な会となり
ました。皆様本当にありが
とうございました。

写真撮影に引き続き、祝
宴となり、まず、現生物資
源学部長の天野秀臣先生か
らのご祝辞を頂きました。大
十三回卒の谷中国昭様、か
らご祝辞を頂きました。そ
して、熊澤先生から感戴あ
るご挨拶を頂きました。

嶋林先生の音頭で乾杯に
なり、さらに、京都大学教
授に昇進された大学二十回
卒の西田律夫先生、信州大
学名誉教授の入江先生が熊
澤先生との思い出をお話さ
れました。現生理活性化学
研究室教授の西川司朗先生
と大学三十回卒の佐藤都夫
様の爆笑の記念品贈呈につ
づき、柏村直樹先生のご挨拶
を頂きました。花束贈呈
と最後に、熊澤先生の最初
の教え子でいらつしやる、
大学十二回卒の伊藤泰男
様、河村宏様、小林紘一様、
鈴木克巳様、鈴木義彦様の
そろい踏みで大いに盛り上
がり、会を締めくくって頂
きました。すると、そこで、
熊澤先生がマイクを持た
れ、お話が始まりました。
熊澤先生の独特の口調とズ
バリと物を言う語りは、八
〇歳を目前になら変わる
ことなく、そのお話の内容



はまさに痛快でした。若い
学生の一人は、熊澤先生の
授業を是非聞きたかったと
ごに感謝の意を噛みしめた
次第です。

会の日取りが年明け間も
なかったこともあり、残念
ながら所用があるとお返事
頂いた同窓生の方々も多
く、申し訳ありませんでし
た。会にご参加頂けなかつ
た方々のメッセージは、す
べて熊澤先生にお届け致し
ました。今後とも三翠同窓
会の皆様方には、ご指導
ご鞭撻を賜りますよう、よ
ろしくお願い申し上げます。
(お祝いの会幹事・稲垣穂)

クラス会レポート...

専2

専二会(仙人掌)
を平成一六年一〇月
一八日、津市のプラ
ザ洞津で開催しまし
た。我々は三重県・
関西・東海の三地区
の持ち回りで開催し
ていますが、今回は
南勢地区が幹事を担
当することになりました。

当日は三十三名中出席が
十六名でした。欠席理由に
体調不良や病後療養中の訴
えが増えたと感じました。

予定時刻には予定者集合
完了し、会食が始まりまし
た。寄る年の波には勝てず
酒量は衰えても、弁舌は衰
えを知らず近況報告は、回
想談を始める人もいて幹事
は終了時間の接近に気をも
みました。閉会後は部屋ご
とに深夜まで話が弾みまし
た。

翌朝は度重なる台風の接
近による雨となり市内の史
跡探訪は予定を中止、翌年
の再会を約して散会しまし
た。(幹事・松村)

楽しい一日を過ごすことが
出来たのも、これまた
熊澤先生のお力であると、
すばらしい恩師を持ったこ
とに感謝の意を噛みしめた
次第です。

会の日取りが年明け間も
なかったこともあり、残念
ながら所用があるとお返事
頂いた同窓生の方々も多
く、申し訳ありませんでし
た。会にご参加頂けなかつ
た方々のメッセージは、す
べて熊澤先生にお届け致し
ました。今後とも三翠同窓
会の皆様方には、ご指導
ご鞭撻を賜りますよう、よ
ろしくお願い申し上げます。
(お祝いの会幹事・稲垣穂)

専2

と阿児安乗を予定したが、
秋に入って地震に二度にわ
たつてみまわれ、伊州勢州
で大被害を受けた嘉永・安
政の地震に似た東南海地震
の津波を恐れて、急ぎよ、
鳥羽の高台に集うこととし
た。この高台は「扇野の里
と呼ばれ、鳥羽の海とその
海に浮んだ碧の島影が一望
できる風光明媚の地であ
る。

宴会で新鮮な海の幸の
数々を賞味満喫し、翌日、
真珠島、スカイラインを経
て伊勢神宮を参拝、おかげ
横丁で昼食をとり、次回は
信州の山に集うことを念じ
て散会した。

写真は、前列右から花山
敦本、林(成)、松尾、勝
田、勝田、村上。中列右か
ら渋谷、細見、後列右から
花山、藤田、梅田、田井中、
村上、古川、原田、敦本の
十七名である。(幹事・花山 敦本)

前回は四年から
二年ごとの開催とな
り今回は関西地区在
住主催で平成一六年
十月六日淡路島に一
泊旅行を行いました。

年齢とともに歳月
の過ぎるのは一年が
一か月、一か月が一
日の感じだとい昨日のよう
な再会となりました。

今回の出席者は二十七名
中久し振りにスペイン在住
の土地君も加わり十六名で
した。

淡路島まで関東、中部か
らバス、自家用車で明石海

峡大橋を渡り、今回の宿舎
のひがしうらサンパークに
三々五々集合。

一風呂浴びた後夜は例年
通り、二年間の健康、菜園
活動などそれぞれ各人の元
気な近況報告に夜遅くまで
盛り上がりました。

翌日は阪神淡路大震災を
記念した北淡町震災記念公
園で震災の惨状を見学、昼
食後二年後の関東地区主催
で再会を期して散会しまし
た。

平成一四年に名古屋
屋で集まって以来三
年の年が流れ、クラ
スメイトが全員還暦
を迎えたのを記念し
て(？)、今回は花見
の宴としゃれ込んだ。開催
時期も、高橋勝史君が丹精
こめたしだれ桜が満開の時
期をねらって、四月九日と
し、松阪に集った。

まず、前座として松阪城
をおとすれ満開のソメイヨ
シノを楽しみ、同時に本居
宣長記念館に魚町から移築
された鈴の家を訪ね、郷土
の偉人に思いをはせた。

ついで今回のメインイ
ベントである、高橋君丹精の
しだれ桜園を訪れた。場所
は松阪市郊外の大河南城跡
にあり、これが私有地で高
橋君が自ら植え、手入れを
しているとのこと。その規
模の大きさに一同驚嘆し
た。園の中には昔風のしや
れたあずま屋があり(高橋
君の退職記念に会社の同僚
たちがくれたもの由)、こ
こでビールでも飲んでいた
ら最高だななどといいな

ら、椅子に腰かけ
高橋君心づくし
の雰囲気を楽し
んだ。今年は気象
が異常で、桜の開
花がいつもより
一週間ほど遅れ
ているとのこと。
本来終わってい
るべき隣の神社
境内のソメイヨシノが満開
で、しだれ桜の方は、一部
の木は満開であったが大部
分は二分咲き程度で、一週
間のちに思いをはせながら
花見を楽しんだ。

もう一つのメインイベン
トは料亭がわせみでの宴で
ある。榎田川に面したひな
びた場所、にぎやかな楽
しい話を肴に、川魚を中心
にしたうまい肴を食べ、美
酒を楽しんだ。

大半が現職を退いたあと
であり、話題はだんだん職
場での生臭い話から孫の話
がとびだす好々爺の話に移
り、四十年前の美少年が還
暦を迎えた現実を身にしみ
て感じたひとときであつ
た。

これからは毎年開催しよ
うということになって、次
回は浜松を拠点に開催する
こととし、全員賛成の拍手
のなか会をお開きに、松
阪駅で再会を約して散開し
た。お世話頂いた高橋君あ
りがとう。写真は小島君。

(小畑記)

平成一七年一月八
日、担任であった熊
澤先生の叙勲祝賀会
に30回生も参加し、そ
の後、二次会を経て、



